

1. 化学品及び会社情報

製品名【におい体験キット】におい物質:パラクレゾール

化学式: 流動パラフィン(99%以上) CmHn
 p-クレゾール(1%以下) C₇H₈O

製造者および供給者	大和サービス株式会社 測定事業部 〒424-8648 静岡県静岡市清水区中之郷3丁目6番1号 TEL:054-348-4185 FAX:054-347-1340
緊急連絡電話番号	測定事業部 営業推進室 (清水駐在)054-348-4185、 (東京駐在)042-773-3571
推奨用途及び使用上の制限	異臭のにおいを体験するために使用

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物質又は混合物の分類

吸引性呼吸器毒性	区分 1
急性毒性(経口)	区分 3
急性毒性(経皮)	区分 3
皮膚腐食性/刺激性	区分 1 A
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分 1
特定標的臓器毒性(単回暴露)	区分 1, 区分 3
区分 1 中枢神経系, 腎臓	
区分 3 気道刺激性	
特定標的臓器毒性(反復暴露)	区分 2
区分 2 呼吸器系, 中枢神経系	
水生環境有害性(急性)	区分 2

絵表示



注意喚起語

危険

危険有害性情報

- H304 - 飲み込んで気道に入ると生命に危険のおそれ
- H318 - 重篤な眼の損傷をおこす
- H301 - 飲み込むと有毒
- H311 - 皮膚に接触すると有毒
- H335 - 呼吸器への刺激のおそれ
- H401 - 水生生物に毒性
- H370 - 以下の臓器に障害を生じる中枢神経系, 腎臓
- H373 - 長期暴露または反復暴露により以下の臓器に障害を生じるおそれ: 呼吸器系, 中枢神経系

注意書き-(安全対策)

- ・ 取扱い後には顔や手など、ばく露した皮膚を洗う。
- ・ この製品の使用時には飲食、喫煙は禁止。
- ・ 保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。
- ・ 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
- ・ 室外もしくはよく換気された場所でのみ使用すること。
- ・ 環境に放出しないこと。

注意書き-(応急措置)

- ・ ただちに医師に連絡すること。
- ・ 眼に入った場合、数分間気を付けて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。

- ・体調がすぐれない場合、毒物管理センター、医師に連絡すること。
- ・再使用前に汚染された衣服を洗う。
- ・皮膚または髪に付着した場合、汚染されたすべての衣服をすぐに脱ぎ、水やシャワーで皮膚を洗うこと。
- ・吸入した場合、新鮮な空気のある場所に移動させ、呼吸が楽な姿勢で休憩させる。
- ・体調がすぐれない場合、毒物管理センター、医師に連絡すること。
- ・飲み込んだ場合、すぐに毒劇物センターもしくは医師に連絡してください。
- ・口をすすぐ。
- ・無理に吐かせないこと。

注意書き(保管)

- ・施錠して保管。
- ・容器をしっかり閉め、よく換気された場所で保管。

注意書き(廃棄)

- ・内容物および容器は承認された廃棄物処理場に廃棄すること。

その他

ほかの危険有害性 情報なし

3. 組成及び成分情報

純物質もしくは混合物 混合物質

化学名	重量パーセント	化審法官報公示番号	安衛法官報公示番号	CAS 番号
p-クレゾール	1%以下	3-499, 4-57	4-(10)-152	106-44-5
流動パラフィン (ホワイトミネラルオイル)	99%以上	2-10, 9-1692	-	8042-47-5

不純物または安定化添加剤 非該当

4. 応急措置

吸入した場合

新鮮な空気のある場所に移すこと。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

皮膚に付着した場合

すぐに石鹼と大量の水で洗浄すること。症状が続く場合には、医師に連絡すること。

眼に入った場合

眼に入った場合、数分間目を閉じて洗浄する。もしコンタクトを装着していて、容易に取り外せるなら、取り外す。その後も洗浄を続ける。直ちに医師の手当てを受ける必要がある。

飲み込んだ場合

口をすすぐ。意識のない人の口には何も与えないこと。ただちに医師もしくは毒物管理センターに連絡すること。医師の指示がない場合には、無理に吐かせないこと。

応急処置をする者の保護

個人用保護具を着用すること。

5. 火災時の措置

消火剤

水スプレー(水噴霧)、二酸化炭素(CO2)、泡、粉末消火剤、砂

使ってはならない消火剤

利用可能な情報はない

特有の消火方法

利用可能な情報はない

火災時の特有危険有害性

熱分解は刺激性で有毒なガスと蒸気を放出することがある。

消火を行なう者の保護

個人用保護具を着用すること。消防士は自給式呼吸器および消火装備を着用する必要がある。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立ち入りを禁止する。作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、ガスを吸入しないようにする。風上から作業して、風下の人を待避させる。

環境に対する注意事項

漏出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。汚染された排水が適切に処理されずに環境へ排出しないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥砂、土、おがくず、ウエス等に吸収させて、密閉できる空容器に回収する。

回収、中和

利用可能な情報はない

二次災害の防止策

環境規制に従って汚染された物体および場所をよく洗浄する。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策

火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。局所排気装置を使用すること。

注意事項

容器を転倒させ落下させ衝撃を与え又は引きずる等の粗暴な扱いをしない。漏れ、溢れ、飛散などしないようにし、みだりに粉塵や蒸気を発生させない。使用後は容器を密閉する。取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをする。指定された場所以外では飲食、喫煙をしてはならない。休憩場所では手袋その他汚染した保護具を持ち込んではならない。取扱い場所には関係者以外の立ち入りを禁止する。

安全取扱注意事項

静電気放電(有機物の蒸気を引火させうる)を避けるために必要な措置をとる。熱、火花、炎、ほかの発火源から離して保管すること(例: 種火、電気モーター、静電気など)。皮膚、眼、衣服との接触を避ける。個人用保護具を着用すること。

保管

安全な保管条件

保管条件 容器は遮光し、換気のよい冷所(25°C以下)に密閉して保管する。不活性ガスを封入して保管すること。施錠して保管。

安全な容器包装材料 ガラス

混触禁止物質 強酸化剤

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

屋内作業場での使用の場合は発生源の密閉化、または局所排気装置を設置する。取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い・洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示する

ばく露限界

化学名	日本産業衛生学会	管理濃度 作業環境評価基準	米国産業衛生専門家会議 (ACGIH)
p-クレゾール 106-44-5	TWA: 5 ppm OEL TWA: 22 mg/m3 OEL ISHL/ACL: 5 ppm	ISHL/ACL: 5 ppm	TWA: 20 mg/m3 inhalable fraction and vapor Skin

保護具

呼吸器用保護具 防塵マスク
手の保護具 保護手袋
眼の保護具 側板付き保護眼鏡(必要によりゴーグル型または全面保護眼鏡)
皮膚及び身体の保護具 長袖作業衣

適切な衛生対策

産業衛生および安全の基準に基づいて取り扱う。

9. 物理的及び化学的性質

形状

色 無色
濁度 澄明
性状 液体
臭い 特異臭(消毒臭)
沸点, 初留点及び沸騰範囲 300 ° C
引火点 224 ° C / 435 ° F
自然発火温度 260-371 ° C

10. 安定性及び反応性

安定性

安定性 光により変質するおそれがある。推奨保管条件下で安定。

反応性 データなし

危険有害反応可能性

通常の処理ではなし。

避けるべき条件

高温と直射日光, 熱、炎、火花、静電気、スパーク

混触危険物質

強酸化剤

危険有害な分解生成物

一酸化炭素(CO), 二酸化炭素(CO2)

11. 有害性情報

【流動パラフィンとして】

急性毒性

化学名	経口 LD50	経皮 LD50	吸入 LC50
ホワイトミネラルオイル	> 5000 mg/kg (Rat)	N/A	N/A

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

データなし

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

データなし

呼吸器感作性又は皮膚感作性

データなし

生殖細胞変異原性

データなし

発がん性

データなし

生殖毒性

データなし

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

データなし

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

データなし

吸引性呼吸器有害性

データなし

【p-クレゾールとして】

急性毒性

化学名	経口 LD50	経皮 LD50	吸入 LC50
p-クレゾール	207 mg/kg (Rat)	130 mg/kg (Rabbit)	> 710 mg/m3 (Rat) 1 h

Component	急性毒性(経口)分類根拠	急性毒性(経皮)分類根拠	急性毒性(吸入-ガス)分類根拠
p-クレゾール	ラットに対する経口投与試験の LD50=207 mg/kg(EHC 168 (1995)) に基づき、区分 3 とした。	動物を用いた経皮投与試験の LD50=750 mg/kg、300mg/kg(EHC 168 (1995))より、低い方の値を適用して、区分 3 とした。	GHS の定義による固体であるため、ガスの吸入は想定されず、分類対象外とした。

Component	急性毒性(吸入-蒸気)分類根拠	急性毒性(吸入-粉塵)分類根拠	急性毒性(吸入毒性-ミスト)分類根拠
p-クレゾール	データなし	データ不足のため分類できない。	データ不足のため分類できない。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

化学名	皮膚腐食性、刺激性分類根拠
p-クレゾール	ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果、「非可逆性の組織破壊」(EHC 168 (1995)) がみられたことから、区分 1A-1C としたが、安全性の観点から 1A とする方が望ましい。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

化学名	重篤な眼損傷性分類根拠
p-クレゾール	ウサギを用いた眼刺激性試験の結果の記述に「結膜、角膜、虹彩に重度の刺激性がみられ、72 時間後までに回復しなかった」(SIDS (2005))、また、ウサギを用いた皮膚刺激性試験の結果「非可逆性の組織破壊」(EHC 168 (1995)) がみられたことから、区分 1 とした。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

化学名	呼吸器および皮膚感作性分類根拠
p-クレゾール	呼吸器感作性: データなし 皮膚感作性: モルモットを用いた皮膚感作性試験結果(DFGOT Vol.14 (2000))に「感作性なし」という記述、またヒトへの健康影響のデータ (SIDS(2005))に「感作性はみられなかった」という記述があるため、区分外とした。

生殖細胞変異原性

化学名	変異原性分類根拠
p-クレゾール	CERI ハザードデータ集 97-9③ (1998)、ATSDR (1992)、SIDS(2005)、NTP DB (Access on October 2005)の記述から、経世代変異原性試験(優性致死試験)で陰性、生殖細胞 in vivo 変異原性試験なし、体細胞 in vivo 変異原性試験なし、であることから区分外とした。

発がん性

化学名	発がん性分類根拠
p-クレゾール	EPA (1991)でCに分類されていることから、区分外とした。

生殖毒性

化学名	生殖毒性分類根拠
p-クレゾール	環境省リスク評価第1巻 (2002)、CERI ハザードデータ集 97-9③(1998)、ATSDR (1992)の記述から、複数の生殖毒性試験において、生殖機能、生殖能力または発生に対する悪影響の存在に関して否定的な報告がなされているため「区分外」としたが、ラットの催奇形性試験において、胎児に僅かな骨格の変異がみられていることには注意が必要である。

特定標的臓器毒性(単回ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(単回ばく露)分類根拠
p-クレゾール	実験動物については、「自発運動抑制、振戦、流涙、呼吸困難、チアノーゼ、出血性の鼻カタル、痙攣、虚脱、鼻腔への刺激性、神経性による筋肉の興奮、痙攣、血尿」(SIDS (2005))等の記述があることから、中枢神経系、腎臓を標的臓器とし、気道刺激性をもつと考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分1に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分1(中枢神経系、腎臓)、区分3(気道刺激性)とした。

特定標的臓器毒性(反復ばく露)

化学名	特定標的臓器毒性(反復ばく露)分類根拠
p-クレゾール	実験動物については、「鼻腔の呼吸上皮の過形成、扁平上皮化生」(CERI ハザードデータ集 97-9③ (1998))、「流涎、振戦、腹部尿汚染、自発運動抑制、頻呼吸、努力呼吸、間代性痙攣、過反応性」(SIDS (2005))等の記述があることから、呼吸器、中枢神経系が標的臓器と考えられた。なお、実験動物に対する影響は、区分 2 に相当するガイダンス値の範囲でみられた。以上より、分類は区分 2(呼吸器、中枢神経系)とした。

吸引性呼吸器有害性

化学名	吸引性呼吸器有害性分類根拠
p-クレゾール	データなし

12. 環境影響情報

生態毒性

化学名	藻類/水生植物	魚	甲殻類
p-クレゾール	N/A	LC50:Pimephales promelas 15.9 - 17 mg/L 96 h LC50:Pimephales promelas 19 mg/L 96 h LC50:Oncorhynchus mykiss 7.5 mg/L 96 h	EC50:Daphnia magna 21.1mg/L 48 h

その他のデータ

化学名	水生環境有害性(急性)分類根拠	水生環境有害性(慢性)分類根拠
p-クレゾール	甲殻類(オオミジンコ)の 48 時間 LC50=1.4mg/L(EHC168, 1995)他から、区分 2 とした。	急速分解性があり(OECD テストガイドライン 301C による 40 日間の分解度: 80-95%(SIDS, 2005))、かつ生物蓄積性が低いと推定される(log Kow=1.94(PHYSPROPDatabase, 2005))ことから、区分外とした。

残留性・分解性

利用可能な情報はない

生体蓄積性

利用可能な情報はない

土壌中の移動性

利用可能な情報はない

オゾン層への有害性移動性

利用可能な情報はない

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

汚染容器及び包装

廃棄は地域、国、現地の適切な法律、規制に則る必要がある。

14. 輸送上の注意

ADR/RID(陸上)	規制されていない。
国連番号	UN3455
品名	Cresols, solid
国連分類	6.1
副次危険性	8
容器等級	II
ERGコード	6C
海洋汚染物質	非該当

IMDG(海上)	規制されていない。
国連番号	UN3455
品名	Cresols, solid
国連分類	6.1
副次危険性	8
容器等級	II
EmS番号	F-A, S-B
海洋汚染物質	非該当

IATA(航空)	規制されていない。
国連番号	UN3455
品名	Cresols, solid
国連分類	6.1
副次危険性	8
容器等級	II
環境有害物質	非該当

15. 適用法令

国際インベントリー

EINECS/ELINCS	収載
TSCA	収載

国内法規

消防法	危険物第四類 第四石油類 危険等級Ⅲ
毒物及び劇物取締法	非該当
労働安全衛生法	【流動パラフィン】 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)No.551 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条、施行令第18条)
	【p-クレゾール】 名称等を表示すべき危険物及び有害物(法57条、施行令第18条) 名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)No.141 第2種有機溶剤等(施行令別表第6の2・有機溶剤中毒予防規則第1条第1項第4号) 作業環境評価基準(法第65条の2第1項) 腐食性液体(労働安全衛生規則第326条)
危険物船舶運送及び貯蔵規則	非該当
航空法	非該当
PRTR法	非該当
輸出貿易管理令	非該当

16. その他の情報

引用文献および参照ホームページ等

NITE: 独立行政法人 製品評価技術基盤機構
<http://www.safe.nite.go.jp/japan/db.html>

IATA 危険物規則書
RTECS: Registry of Toxic Effects of Chemical Substances
中央労働災害防止協会 GHS モデル SDS 情報
有機合成化学辞典(社) 有機合成化学協会講談社サイエンティフィック
化学大辞典共立出版
等

免責事項

この SDS は JIS Z 7253:2012 に準拠しております。記載内容は通常の取扱を対象としたものであって他の物質と組み合わせるなど特殊な取扱いをする場合は使用環境に適した安全対策を実施の上ご利用ください。改訂日における最新の情報に基づいて作成されておりますが、すべての情報を網羅しているものではありませんので新たな情報を入手した場合には追加又は訂正されることがあります。また、安全な取扱い等に関する情報提供を目的としておりますので物性値や危険有害性情報などは製品規格書等とは異なりいかなる保証をなすものではありません。全ての製品にはまだ知られていない危険性を有する可能性がありますので取扱いには十分ご注意ください。

GHS 分類は JIS Z7252(2010)に準拠している。*JIS: 日本工業規格

以上